



TITLE:

花山だより

AUTHOR(S):

CITATION:

花山だより. 天界 1931, 11(123): 353-353

ISSUE DATE:

1931-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161677>

RIGHT:

花 山 だ よ り

花山は相變らず賑やかです。上田博士も永の旅から歸られて、本館階上に陣取られることになりました。五月から古川、田島兩氏も臺員に加はられて、賑やかさを増してゐます。

中村氏は、いつもの通り觀測に熱心で、エロスを五月十九日の日まで追蹟されました。そして又、六月八日には珍らしく光度の強い小遊星を一つ發見されました。これは直ぐ「花山第五號」と名づけられ、コペンハーゲンへ電報されました。ひどく南の星なので、歐米では觀測されないだろうとの心配からです。

少し古い事ですが、去る五月初めに、京都から十名の者が打ち揃つて東京の三鷹天文臺を訪れました。愉快でした。次號にでも其の事を一つの記事にしようと思つてゐます。

六月十八日は帝大の開放日で、わが花山も、創立以來最初の一般公開をやりました。一二週間も前から柴田委員長以下全員の大努力で、万端の準備が進められ、愈々十八日の其の日を待ちました。其の日は午前九時から開くといふのに、早くも七時から群集が押しよせ、朝寢坊連をまごつかせました。正午頃、少し雨模様となりましたが、すぐ又晴れて、人々を安堵させました。午後六時に門を閉ぢるまで、約十時間の間に、山麓から花山になだれ込んだ人の總數は約五千で、ほゞ昨年一年間の來觀者の數に當ります。バスの往復が約三百、他に私用の自動車約百五十。此の騒ぎのため「花山道路」はアスファルトを布いた如くになりました。電車もバスもホク々々。構内の賣店も、同好會の池田様もホク々々でした。

この御蔭で、天文臺の本館には豪勢な Photo-gallery が出來ました。これからは、研究觀測の成績品などを此所に並べて、日夜、楽しみたいものです、